



第50回を記念して息栖神社周辺で開催された神栖花火大会(令和7年11月22日)



鹿島臨海工業地帯の夜景(昭和45年ごろ)



建設中の鹿島セントラルビル(昭和47年ごろ)



息栖大橋が架かる前の息栖の渡船場周辺



通学で混み合う第八おみがわ丸(撮影：篠塚栄三)と定期券

今回、息栖大橋についてたくさん
の思い出話を聞く中で、橋は人と人
地域と地域を結ぶだけでなく、昔と
今をつないでくれるように感じまし
た。最後に猿田さんが、改めて現在
の船溜まりや常陸利根川を眺めなが
ら話してくれました。

橋が物語る神栖の魅力

約5万人が台船上から打ち上げられ
る花火を楽しみました。約50年前の
花火大会を思い出しながら、懐かし
く夜空を見上げた人もいるかもしれ
ません。

「その後、昭和62(1987)年に花
火大会の会場が神之池緑地へ移転
し、かみす舞っちゃげ祭りとの同時
開催となりました。また、令和7
(2025)年には、神栖市市制施行
20周年および第50回を記念して息栖
神社周辺(常陸利根川河畔)で開催さ
れました。この日は天候に恵まれ、

渡船が廃止される前に同僚と乗り
に行ったり、工場夜景が珍しいと車
でベルコン通りを走って見に行っ
たりもしました。人口がどんどん増え、
生徒数も多くて、1学年に8クラス、
1クラスは約50人くらいで教室は満
杯でした。小見川
町(現在の香取市)
から自転車を通っ
てくる生徒もいて、
風雨が強い日は大変
だったと思います。根
性がありましたね」



片岡さん

「大槻さん夫妻は、さまざまな場
面で息栖大橋の便利さを実感したと話
します。「佐原第一高校(現在の佐原
高校)に入学した従兄弟は、自転車、
渡船、バス、電車を乗り継いで片道
2〜3時間の通学は大変と、高校
の近くにあったお寺に下宿をしてい
ました。渡船は水門を2つ通るので
時間がかかるんです。橋ができてか
らは自宅から通学できるようになり
だいぶ変わりましたね。また、以前
は東京の親戚の家まで日帰りでは行
けませんでしたが、今は片道1時間
半で行き来できます。成田空港へは
高速道路を使わず1時間未満で行け
るので便利です。どれも息栖大橋が

河畔で始まった花火大会

「鹿島開発に伴い中心市街地が栄え
る一方で、息栖は取り残されたよう
に感じることもありましたが、東国三
社巡りのブームなどにより再び賑わ
いが戻ってきました。神栖市は工業
だけでなく歴史・文化も誇れる地域
なのだ知ってもらえれば、まちの魅
力にも厚みが増すと思います。この機
会に少しづつ、常陸利根川沿いに目
を向けてもらえるとうれしいですね」
普段何気なく渡っている橋も、そ
の背景を知れば知るほど特別なもの
に見えてきます。橋は単なる構造物
ではなく、地域のストーリーを次の
世代へとつなぐ確かな架け橋となっ
ています。



神栖ディスカバリーを カミスマカでも 楽しめる



今号から「神栖ディスカバリー」を、神栖市
魅力情報発信ポータルサイト「カミスマカ」で
もご覧いただけるようになりました。紙面で紹
介しきれなかった情報やコラムなど、
オリジナルコンテンツも掲載します。
ぜひご覧ください。

